

## 第10回アフリカの平和と安全に関するダカール国際フォーラム開会式

### 大西外務大臣政務官ステートメント

ファイ・セネガル共和国大統領閣下  
御列席の皆様

第10回ダカール国際フォーラムの開会に際し、日本政府を代表して御挨拶申し上げます。はじめに、ファイ大統領を始めとするセネガル政府の皆様による本フォーラムの開催に向けた御尽力に敬意を表します。日本も、2014年に開催された第1回より継続してこの重要なフォーラムの開催を支援してきたことを誇りに思います。

アフリカは、若く活気に満ちた大陸であり、豊富な資源と豊かな文化を有しています。ダイナミックな成長への期待と、地域統合を通じて拡大した市場としての魅力もあり、国際社会の注目も高まっています。同時に、アフリカは、政治情勢の不安定化や、紛争、テロ、暴力的過激主義などと闘っている地域でもあります。また、国際情勢の不安定化の影響も、避けることはできません。ロシアのウクライナ侵略や中東情勢の悪化などが、エネルギー価格や食料供給の不安定化を通じて、アフリカ諸国の社会経済にも影響を及ぼしています。社会的不安が大きくなれば、地域の不安定化リスクも高まり、持続可能で包摂的な経済成長の実現も困難になりかねません。アフリカが、その潜在力を十分に発揮し、これまでに進めてきた経済成長、域内統合を継続し、さらに発展するためには、平和で安定した社会の構築は不可欠だと言えるでしょう。

今回のフォーラムのテーマ「安定、主権及び統合の挑戦に直面するアフリカ：持続可能な解決策とは？」はまさに今、アフリカが直面する最も重要な課題を的確に捉えたものと考えます。複雑かつ多面的な挑戦に対しては、各国が知恵

を持ち寄り、建設的な議論を通じて、打開策を見いだすことが重要です。日本は、テロ対策や紛争解決に向けたアフリカ各国の、また地域的な取組を支持し、敬意と連帯を表明します。そして、アフリカの自助努力を支えつつ、平和と安定、さらに地域統合の強化に向けて、共に歩んでいきたいと考えています。

日本は、1993年、世界が冷戦後の秩序変動に直面し、アフリカ支援への関心が低下する中で、国際社会のアフリカへの関心を再び喚起し、アフリカ諸国のオーナーシップに基づく開発を支えるため、アフリカ開発会議（TICAD）を立ち上げました。TICADでは、ダカール国際フォーラムの一貫したテーマでもある「平和と安定」を、アフリカ開発の基盤の一つであると捉え、その重要な柱の一つに位置づけてきました。

そして、アフリカの平和と安定のために、日本としても取組んできました。例えば、PKOの持続的な人材育成への貢献です。国連三角パートナーシップ・プログラム（TPP）を通じたPKO要員への工兵、医療分野訓練や、アフリカ各国に設置されているPKO訓練センターに対する支援などを実施してきました。

また、前回、2023年のダカール国際フォーラムで、日本は、サヘル地域とギニア湾沿岸諸国の平和と安定に寄与し、持続可能な成長を促進するための、3年間で約5億ドルの支援を行うとお話しました。あれから3年、日本は、PKO訓練センターに対する支援や、テロや暴力的過激主義への対策、情勢不安定化等の影響を受けたコミュニティ強化など、サヘル地域とギニア湾沿岸諸国の平和と安定に寄与し、持続可能な成長を促進するための幅広い支援を、5億ドルを超える規模で実施し、今後も地域の平和と安定に向けた支援を続けていく考えです。

国際の平和と安定を希求する上で、日本は、「自由で開かれたインド太平洋」、通称FOIPをその外交理念の一つとして掲げています。FOIPは、「自由」や「法の支配」を擁護し、多様性と包摂性を尊重する国際秩序の維持・強化を目指し、地域や、ひいては世界の平和と安定、繁栄を確保していくというビジョンです。こうした考え方は、日本の対アフリカ外交にも通じており、実際に、初めてFOIPが提唱されたのは、10年前、ここアフリカ大陸においてでした。

不確実性の高まる国際環境下において、FOIPの考え方はますます重要です。日本は、今後も、アフリカの域内外の統合に向けた各種取組を後押しするとともに、法の支配に基づく海洋秩序の維持・強化や、テロ・海賊対策を含めた平和と安定の確保に引き続き取り組んでいく考えです。

御列席の皆様、

このダカール国際フォーラムは、アフリカ諸国と国際社会が手を携え、平和と繁栄を切り拓くための貴重な場です。日本は今後も「人」を中心に据えた取組みを通じて、アフリカの平和と安定、持続可能な発展に寄与してまいります。そして、国際社会の責任ある一員であるアフリカと共に、責任あるグローバル・ガバナンスの構築に向けて、取り組んでいきます。

ありがとうございました。